

* 2003年1月27日に米国で発表されたプレスリリースの抄訳です。

[ご参考]

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービスズ・グループ、 2002年第4四半期ならびに年間業績の概要を発表

当四半期の純利益は2億5,800万ドル、1株当たり1.01ドルを計上、
通年の1株当たり純利益は89%増の3.97ドルに

[米国 コネチカット州ハートフォード 2003年1月27日]

国際的な大手保険および金融サービス会社であるザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービスズ・グループ (NYSE 略称: HIG、以下「ザ・ハートフォード」) は本日、2002年第4四半期 (2002年10~12月、以下「当四半期」) および2002年度通期 (2002年1月~12月) の業績を発表し、収益が大幅に増加したことを明らかにしました。この好業績は、損害保険市場で保険料が高水準に推移したこと、生命保険事業のうち株価の変動に影響を受ける分野において、市場の長期低迷がもたらす影響を最小限に食い止めたことによるものです。

ザ・ハートフォードの会長兼最高経営責任者であるラマニ・アイアーは、「この業績結果は、当社が、多様な事業基盤を持つことによって市場の乱高下に十分耐えること、そして利益を生み出し、成長を持続することができたことを示しています」と述べています。

当四半期におけるザ・ハートフォードの純利益は、前年同期の1億4,400万ドルから79%増加して2億5,800万ドルを計上しました。これは、株式市場の低迷を受け生命保険事業の収益が減少したにもかかわらず、北米における損害保険事業が堅調に収益を伸ばしたことによるものです。純利益には税引き後の実現キャピタル・ロスが算入されていますが、当四半期は4,300万ドルと、前年同期の9,800万ドルから減少しています。また1株当たり純利益 (希薄化後ベース) についても、前年同期の0.58ドルから74%増加し、1.01ドルを計上しています。

当四半期におけるザ・ハートフォードの経常利益は、前年同期の2億6,100万ドルから15%上昇し3億100万ドルに、また1株当たり (希薄化後) では前年同期の1.06ドルから1.17ドルに増加しています。これも損害保険事業において経常利益が著しく改善したことによるものです。なお、経常利益には税引き後の実現キャピタル・ゲイン (ロス)、リストラクチャリング関連費用、負債の早期返済による損失および会計方針の変更による累積的影響は含まれていません。

当四半期における1株当たりの経常利益 (希薄化後) には、主に2002年第3四半期に増資を行って新たに730万株を発行したこと、また株式報酬制度においてストック・オプション等権利が行使されたことを受けて前年同期に比べ発行済株式数が増加したことが影響しています。

北米損害保険事業の2002年12月末時点における第4四半期の新規契約の保険料収入は、14%増加し、コンバインド・レシオ (損害率と経費率との合計値) は4四半期連続で100を下回っています。

またアイアーは、アスベスト損害賠償問題が損害保険会社にとって依然として課題となっており、事態が急速に展開しているため、アスベスト関連のリスクについて引き続き注意を払う必要があるとの見解を示しました。ザ・ハートフォードでは、2003年第2四半期にアスベスト関連の全容を調査報告書にまとめるとともに、アスベスト関連諸費用と準備金についての詳細情報を開示する予定です。

2002年第4四半期ならびに年間業績

単位：100万ドル（税引き後）	10月～12月		1月～12月	
	2002	2001	2002	2001
純利益	\$258	\$144	\$1,000	\$507
-実現キャピタル・ゲイン（ロス）	(43)	(98)	(250)	(164)
-会計方針の変更による累積的影響	--	--	--	(34)
-リストラクチャリング関連費用	--	(11)	--	(11)
-負債の早期返済による損失	--	(8)	--	(8)
経常利益	\$301	\$261	\$1,250	\$724
-純利益（希薄化後、1株当たり）	\$1.01	\$0.58	\$3.97	\$2.10
-経常利益（希薄化後、1株当たり）	\$1.17	\$1.06	\$4.96	\$3.00
総収入	\$4,161	\$3,856	\$15,907	\$15,147
総資産（2002年12月末現在）	--	--	\$182,043	\$181,593
運用資産残高（2002年12月末現在）	--	--	\$198,676	\$198,914

生命保険事業

アイアーは、ザ・ハートフォードの生命保険事業に関して次のようにコメントしています。「誠実な業務遂行の履行と、優れた販売チャンネル、商品開発などが相まって、市場全体でのシェアを維持するとともに、いくつかの主要市場においてはシェアを伸ばしています。厳しい株式市場環境にもかかわらず、生命保険部門は変額年金保険と401(k)の販売において過去の記録を更新し、また団体生命保険部門においても競争が激化する中、引き続き事業は順調に推移しています」。

また500万ドルの営業権償却（税引き後）の影響を除外したザ・ハートフォードの生命保険事業における純利益は、長引く株価の低迷が個人年金の業績に影響して、前年同期の1億4,000万ドルから11%減少しています。

ザ・ハートフォードの当四半期における変額年金の販売額は、過去最高の35億ドルに達しました。これは当期第3四半期比で45%、前年同期比では70%の大幅増加にあたります。

なお、すぐれた顧客サービスに対して贈られる荣誉あるダルバー賞を『年金顧客サービス』部門において7年連続で受賞しました。ダルバーは独立した金融サービス調査機関です。

アイアーは、また、ザ・ハートフォードの日本法人であるハートフォード生命保険株式会社の業績にも触れ、「ハートフォード生命保険株式会社は、変額年金保険の好調な売上により、業界でも抜きん出た業績を記録しています。日本では10月より年金保険商品の銀行窓販が始まっており、今後も変額年金保険市場がいっそう拡大していくことを期待しています」と述べています。ハートフォード生命保険の当四半期における変額年金保険の販売額は921億円に達し、前年同期に比べ4倍以上の増加を見せています。また2002年（1月～12月）の年間販売額は1,765億円に達しています。

(生命保険事業の投資金融商品、個人生命保険、団体生命保険等の各部門に関する記載は省略。)

生命保険事業の2002年第4四半期ならびに年間業績

単位：100万ドル単位（税引き後）	10月～12月		1月～12月	
	2002	2001	2002	2001
純利益	\$125	\$135	\$557	\$685
-実現キャピタル・ゲイン（ロス）	(42)	(46)	(196)	(89)
-会計方針の変更による累積的影響	--	--	--	(26)
経常利益	\$167	\$181	\$753	\$800

北米損害保険事業

保険料が高水準に推移したことにより引受業務の業績は著しく改善され、当四半期における北米損害保険事業の純利益は1億3,500万ドルへと増加しました。

アイアーは「強力な事業基盤、高水準の保険料、堅実な引受業務などが効を奏し、主要市場におけるシェアを伸ばすことができました。保険料収入の増加は10%台に達し、コンバインド・レシオも全体で5.2ポイント改善しました。この二点は当社が成長を続け、収益を上げていく上で重要な要素です」と述べています。

当四半期における保険料収入は、引受手数料の引上げに伴い12%増加し、コンバインド・レシオは99.4ポイントとなりました。損害保険事業では4四半期連続でコンバインド・レシオが100を下回っています。正味資産運用収益は運用利回りが低下したにもかかわらず、順調なキャッシュ・フローと資産ベースが拡大したことを受けて、11%増の2億5,200万ドルに達しました。4分野（*）で保険料が高水準に推移したことが幸いし、当四半期の北米における損害保険事業の純計上収入保険料は14%増加し21億ドルとなりました。

北米損害保険事業における当四半期の大災害損失は、前年度の600万ドル（税引き後）から1,000万ドル（税引き後）となっています。

(*) 損害保険事業の個人損害保険、事業損害保険、企業物件スペシャリティ保険等の4部門に関する記載は省略。

北米損害保険事業の2002年第4四半期ならびに年間業績

単位：100万ドル単位（税引き後）	10月～12月		1月～12月	
	2002	2001	2002	2001
純利（損）益	\$135	\$21	\$482	\$(125)
-実現キャピタル・ゲイン（ロス）	(5)	(52)	(37)	(79)
-会計方針の変更による累積的影響	--	--	--	(8)
-リストラクチャリング関連費用	--	(10)	--	(10)
-負債の早期返済による損失	--	(8)	--	(8)
経常利（損）益	\$140	\$91	\$519	\$(20)

2002年度(2002年1月~12月)業績

アイアーは、通年の業績に関し次のように述べています。「2002年は保険市場にとっても株式市場にとっても厳しい年ではありましたが、当社の多様なビジネス・モデルと業界トップの販売基盤、商品開発、堅実な引受業務の遂行ならびに保険金請求業務管理の徹底などにより乗り切ることができました。例えば、事業保険においては新規契約が、当四半期に27%、通年では23%増加しています。また変額年金保険の販売では通年で過去最高の103億ドルを記録し、ザ・ハートフォードは依然として全米で業界トップの地位を維持しています」。さらに、ザ・ハートフォードは401(k)でも10億ドルの販売額を達成し、記録を塗り替えています。

2002年度におけるザ・ハートフォードの純利益は、前年度の5億700万ドルから10億ドルに増加し、1株当たり(希薄化後)では、2.10ドルから3.97ドルに増加しました。また経常利益は、前年の7億2,400万ドルから12億5,000万ドルに増加し、1株当たり(希薄化後)では3.00ドルから4.96ドルに達しています。

ザ・ハートフォードの当年度における経常利益には、生命保険事業関連の項目がいくつか算入されています。ハートフォード・ライフの7,600万ドルに上る税効果、バンコプ・サービズ社(Bancorp Services)との訴訟関連費用1,100万ドル(税引き後)、また同時多発テロ事件での被害額が予想を下回ったことから生じた800万ドル(税引き後)の効果などです。また2001年度の年間業績には、同時多発テロ事件に関連した税引き後4億4,000万ドルの損失、ハートフォード・ライフへの連邦税効果の1億3,000万ドル、営業権償却(税引き後)の5,200万ドルが含まれています。

ザ・ハートフォードの2002年度の総収入は、前年度の151億ドルから5%上昇し、159億ドルを計上しました。

総資産および株主資本

2002年12月31日現在、ザ・ハートフォードの総資産は、前年度よりわずかに増加し1,820億ドルとなり、当社および子会社が運用する投資信託資産を含む運用資産残高は1,987億ドルに達しています。2002年12月31日現在、その他の累積利益を除いた1株当たりの簿価は、前年同日の34.54ドルから9%増の37.77ドルとなりました。その他の累積利益を算入した場合、2002年12月31日現在の簿価は、前年同日の36.71ドルから増加して42.06ドルとなります。

アイアーは「今回の業績結果は、収益性を目指した当社の戦略が効を奏したこと、2003年以降もすべての事業分野でさらなる成長を続ける態勢が整っていること、そして、健全な経営体制が顧客に選ばれたことを示しています。我々は、顧客が契約履行能力、優れた顧客サービスの提供、安定した経営を求めていることを十分理解しています」と述べています。

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービズ・グループ(NYSE略称:HIG、以下「ザ・ハートフォード」)は米国で最も由緒ある大手保険および金融サービス会社の一つであり、2002年の総収入は159億ドルを計上しています。2002年12月31日現在、当社の総資産は、1,820億ドル、株主資本は107億ドルに達しています。ザ・ハートフォードは、投資金融商品をはじめ、各種生命保険、団体生命保険、自動車保険、住宅保険、法人向け損害保険のほか、再保険などを提供しています。ハートフォード生命保険株式会社はザ・ハートフォードの日本法人です。

ザ・ハートフォードに関するより詳細な財務情報の入手をご希望の方は、当社のホームページ(www.thehartford.com)にアクセスしてThe Hartford's Investor Financial Supplementのページをご覧ください。

このリリースに記載された一部のステートメントは、1995年私募証券訴訟改正法（Private Securities Litigation Reform Act of 1995）において定義されている予見的情報（forward looking information）とみなす必要があります。当社は、投資家の皆様にこのような予見的ステートメントが将来の業績を保証するものではなく、実際の業績は大きく異なる可能性があることをお断りします。投資家の皆様は、当社の事業にかかわるリスクと不確定要素が将来の業績に影響を及ぼす可能性を考慮することが求められます。こうしたリスクと不確定要素については、皆様が入手可能な文書、例えば当社の年次報告書、SECに提出した文書等に記載されています。またこうした不確定要素には、予想以上の損失を被る可能性、再保険契約下での再保険会社の今後の対応、アスベスト訴訟関連で予想される債務と実際の債務が現在の推計額を上回る可能性、経済および経営環境が予想よりも悪化する可能性、金利または株式相場変動の可能性、予想以上に競争が激化する可能性、当社にとって不利な法律の制定や司法判断の可能性および自然災害が予想を超える頻度または深刻度で発生する可能性などが含まれます。なお、当社では、発表当日後における本リリースの内容更新については義務を負っていません。

< プレスの方からのお問い合わせ先 >

ハートフォード生命保険株式会社

コーポレート・リレーション部

（代）03-5777-8684